

ビジネスコンテストをきっかけに ワーキングマザーの課題解決をテーマに起業



FindSitter 代表
羽根田 里志
SATOSHI HANEDA

PROFILE

2014年3月立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修了。13年度優秀論文賞・HonorStudent。在学中にビジネスコンテスト多数受賞。そのプランを基に、2014年9月、経験と人柄を個別審査した保育者を、手ごろな価格で家庭に提供する「FindSitter」のサービスを開始。共働き家庭の保育に加え、ひとり親の子育て・教育・就労に焦点を当てたシングルマザーシェアハウス等により、ワーキングマザーの抱える社会課題の解決を目指す。



「父性と兄弟の保育」をコンセプトに、共働きやひとり親世帯へのサービス立ち上げに奮闘。
(写真は「FindSitter」ホームページ)

起業へと奮い立たせたのは自分の原体験と 社会課題にビジネスで向き合うやりがい

社会人になって初めて学ぶ楽しさを知り、先生や学校の方向性に惹かれRBSへと進学を決めました。起業のきっかけは1年次の外部ワークショップで、扱ったテーマがワーキングマザー向けの保育サービスでした。1ヵ月で100件以上のワーキングマザー、保育園やベビーシッターへのインタビューを行い、現在の原型となるプランを作成し、優勝することができました。2年次でもいくつかのビジネスコンテスト受賞を経て、RBS修了後の2014年9月、関わってきたメンバーと「FindSitter」を立ち上げました。活動の中で、独身の若い男性がなぜ保育を?とよく聞かれます。多くのインタビューを通して、現代の保育課題を痛感したというのがありますが、私自身がシングルマザー家庭で育った生い立ちが影響していると気づきました。やはり他の起業家と話しても、人を心から突き動かすのは自分の根底にある原体験だと実感しています。もちろん、活動を実際に始めると甘かったことばかりで、より深い課題にぶつかる毎日ですが、私らしく、社会課題へビジネスの手法で向き合っていきたいと考えています。

授業やゼミで何を得られるか、自らの心持ち 次第で、社会人学生は大きく変わる

RBS入学時は起業など夢にも思っていなかったのですが、日々の授業や先生方との対話で徐々に変わっていきました。ある授業で、「経営者・起業家とは」と議論をした際、経営学とは実学であり、当然ながら、経営者にならないと経営者の気持ちはわからない、そして経営する力をつけるには、とにかく早く経営なり起業を経験するしかないなと痛感しました。その体験が、自分で1つの事業を始めたと思うきっかけでした。

RBSは、まさに経営層世代の方々和我のような若手が対等なる貴重な場です。授業では皆が同級生、年齢や経験に偏らず、相手の意見に耳を傾け、尊重し合い、お互いが生産的な姿勢と議論を尽くすことで見えてくるのが必ずあります。ぜひ相手と、自分自身と、深く向き合ってみてください。

(撮影・取材・文／13期生 南陽子)

編集後記

人は自己・他者との対話を通して成長していくものだとことを、今回の取材で改めて学ばせて頂きました。最近は何ぞ禅問答がマイブーム。春休みの今は趣味の読書やゲームに力を費やしています。(神野真琴)

振り返るとこの一年間は、無我夢中でガムシャラに過ごした日々でした。春からの始動に向けて獲得したスキルと、まだ不足しているものの棚卸しをすべきだと思いました。その意味で春休みは良い機会となります。(阿部正樹)

この1年は想像だになかったことばかりで、公私ともに激動の1年でした。多くの人に背中を押していただいた2014年度。2015年度は修論含め飛躍の1年にできるよう決意を新たに新年度のスタートをぎります。(南陽子)

12期生の修士論文口頭試問を傍聴させて頂いた。普段の講義やレポート試験の厳しさをJリーグとすれば、これはW杯の本大会である。一勝することさえ難しい。予選リーグ突破のため普段の目標設定に厳しくありたい。(編集長 杉山章)